

学校名：東京都立山崎高等学校	
	氏名：太田 進
[担当教科：外国語(英語)]	● 実践教科等：コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅱ等
	● 時間数：5時間
	● 対象生徒：2,3年生
	● 対象人数：7人～36人

## 1 単元名

アフリカと日本の深いつながりを知り日本の国際協力について考えよう

## 2 単元の目標

- ・ザンビアとアフリカについて知り、日本との共通点、相違点を理解する。  
(多面的、総合的に考える力)
- ・ザンビアでの日本人の活躍を通し国際協力・国際貢献について考えを深める。  
(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・ペアワークやグループワークを通じて日本や人間にとって大切なものについて話し合い、意見をまとめる。  
(コミュニケーションを行う力)

## 3 資質・能力育成に向けた授業づくりの視点(国立教育政策研究所・2014)

- ・「導入や展開の冒頭部分で“Are there anything related to Africa in Japan? や “Have you ever been abroad?” などと生徒に問いかけたり、授業の主題に関する視聴覚教材を提示する【1】」
- ・「学習内容に関するクイズやブレインストーミングを行い、生徒の多様な考えを引き出す【2】」
- ・「教材を厳選し、シミュレーションやランキングなどの参加型学習の手法を取り入れ、生徒の考えを深める【3, 4】」
- ・「ペアワークやグループワークで話し合った内容をまとめ、他のグループに発表し意見を共有する【7】」
- ・「学習した内容についてワークシートを用いてリフレクション(振り返り)をする【6】」

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 意味のある問いや課題で学びの文脈を造る   | 2 子供の多様な考えを引き出す          |
| 3 考えを深めるために対話のある活動を導入する | 4 考えるための教材を見極めて提供する      |
| 5 すべ・手立ては活動に埋め込むなど工夫する  | 6 子供が学び方を振り返り自覚する機会を提供する |
| 7 互いの考えを認め合い学び合う文化を創る   |                          |

## 4 単元の指導について

### (1)教材観

外国語(英語)の学習指導要領の「指導計画の作成と内容の取扱い」の中で、「広い視野から国際理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるとともに、国際協調の精神を養うのに役立つこと。」とある。2020年に東京でのオリンピック・パラリンピックを控え、各生徒の広い視野からの国際理解と、国際協調の精神を養うことを踏まえ教材を選択し、生徒の自発的な学習を促していきたい。また、生徒の学習への興味・関心を引き出し、動機づけを行うために研修中に撮影した写真を用いたスライド、現地の人々のインタビュー動画などを教材として効果的に活用する。

### (2)生徒観

本校は町田市の郊外に立地し、自然豊かな環境の中、学習や部活動などの特別活動に生き生きと取り組む生徒が多く通学している。またオリンピック・パラリンピック教育推進校として国際社会で貢献できるような生徒を育むため近年国際理解教育にも力を入れている。

英語科では全学年習熟度別による少人数教育を取り入れており、ALTとJETを活用した英語コミュニケーション活動に特化した授業も盛んである。担当学年でもある2学年では昨年1月に実用英語検定

を全生徒が受検しており、英語学習への動機づけが高い生徒が多い。

諸外国への関心については欧米各国、オーストラリア、韓国など一般的に日本と身近と言われる国への関心はあるがアフリカや東南アジアなどへの関心はさほど高くなく、知識も少ない。国際協力については難しいもの、自分にはできないものにとらえている傾向が多いことが事前の調査で明らかとなっている。

### (3) 指導観

一般的にはなじみの少ないザンビアを入口とし、アフリカとのつながり、日本との相互依存にある関係から国際協力の必要性、支援・援助と協力の違いについて学んでいけるような指導を行いたい。また、生徒の多様な考えや意見を引き出し、深めるためにグループでの話し合い、協議などの協同学習や参加型学習を多く盛り込んだ指導を展開する。そして、SDGs(持続可能な開発目標)とのつながり、視点を取り入れた指導を行う。

## 5 評価規準

観点	(コミュニケーションへの) 関心・意欲・態度	(外国語表現の能力) 思考・判断・表現	(外国語理解の能力) 技能	(言語や文化についての) 知識・理解
評価規準	ザンビアを通じ世界の多様性や文化、日本の国際協力の必要性について意欲的に学ぼうとしている。	アフリカと日本の相違点や共通点、日本の国際協力の必要性について考え、自分の意見や考えを表現できる。	アフリカや日本の国際協力に関する教材から、正しく情報を理解することができる。	アフリカと日本の相違点や共通点、日本の国際協力について必要な知識を身につけている。
評価方法	ワークシート リフレクションシート	ワークシート リフレクションシート	ワークシート リフレクションシート	ワークシート リフレクションシート

## 6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	ザンビアを通じアフリカへの理解を深めよう	ザンビアの概要(地理、歴史、文化)について理解し、日本との相違点、共通点について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・brainstorming (アフリカについて)</li> <li>・photo language</li> <li>・ザンビア(アフリカ)と日本の共通点と相違点を比較(Think-pair-share)</li> </ul>
2	日本とアフリカのつながりを考えよう	日本にある多くのものがアフリカとつながりがあることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本にあるものでアフリカと関係のあるものを考える</li> <li>・日本にあるものがアフリカと関連があることを知る学習活動を通じアフリカとのつながり、アフリカの課題を考える</li> </ul>
3	国際協力の必要性について考えよう	日本の諸外国への依存性を知り、国際協力の必要性について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の復習(生徒の振り返り紹介)</li> <li>・世界における日本の依存性を知る(食料自給率、エネルギー資源など)</li> <li>・国際協力に否定的な意見を読み、意見交換を行う(事前研修のもの)pair work</li> <li>・日本にとって大切なものという主題でグループ学習(ranking)を行う</li> </ul>
4	難民について学び人間にとって大切なものを考えよう	シミュレーションワークを通じ人間(自分自身)にとって大切なものを考え、討論する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここまでの学習の振り返り(Q &amp; A)</li> <li>・難民について知る</li> <li>・グループ学習(シミュレーション)を通じて難民の生活を仮想体験する</li> <li>・人間にとって大切なものを考える</li> </ul>

5	ザンビアで活躍する日本人を通じて日本の国際協力について考えよう	ザンビアで活躍する日本人を通じて日本の国際協力について考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ODA、国際協力団体について知る</li> <li>・ザンビアで活躍する日本人からのメッセージ動画を視聴する</li> <li>・国際協力について考え、グループで意見を交換する。</li> <li>・SDGsについて紹介し、その視点から国際協力をとらえ直す。</li> </ul>
---	---------------------------------	---------------------------------	--

## 7 授業事例の紹介

小単元名【ザンビアで活躍する日本人を通じて日本の国際協力について考えよう】

### (1) 指導案

(ア)実施日時 12月21日(木)第2限

(イ)実施会場 2年5組教室

(ウ)本時の目標

ザンビアで活躍する日本人を通じて日本の国際協力について考える

(エ)指導のポイント

- ・動画やスライドなどの視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の外国・国際協力への興味関心を高める。
- ・ペアワークやグループワークを効果的に取り入れ、主体的かつ能動的に学習課題へ取り組めるようにする。
- ・国際協力と支援・援助の違い、途上国と先進国の諸問題について多角的に考え意見を発表できるようにする。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 10分	会話を通じて生徒の外国への関心を互いに知る	会話練習 “Have you ever ~?”	ペアワーク	・展開例を提示しテンポよく行う	観察
展開 ① 5分	日本の様々な国際協力団体、方法について紹介する	クイズを通してODA、国際協力について知り、理解する	一斉	・スライドを活用しながら既習事項の問いかけをする	
展開 ② 20分	ザンビア(アフリカ)で国際的に活躍する日本人を紹介する。	ザンビアで国際的に活躍する日本人の動画を視聴する	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点が分かりやすくなるよう、黒板に随時板書する</li> <li>・視聴しながらメモを取らせる</li> </ul>	
展開 ③ 10分	協力と援助の違いに触れながら、国際協力について考える	国際協力の必要性についてグループで意見交換をしながら、考えを深める	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで学んだ内容も含めて話し合わせる</li> <li>・進行、発表者を決める</li> </ul>	観察・発表
まとめ 5分	学習した内容のまとめをする	ワークシートを用いて振り返りをする	個人	ワークシートを提出させる	ワークシート

【授業での様子】



(2) 授業の振り返り

・本時の授業についての考察

〔良かった点〕

- ・生徒が主体的かつ意欲的に個人学習とグループワークに取り組む姿が見られ、自身やグループでの意見や考えを適切に表現していた。
- ・実際に現地で活躍する日本人の動画を見て、彼らのメッセージを通じて国際協力を身近に感じ、考えを深めることができていた。

〔課題と改善点〕

- ・授業後の協議会で授業のねらいと価値づけが不十分だという指摘があった。自身のねらいとして生徒一人がまとめのリフレクションで価値づけるのをねらいとしていたが
- ・SDGs との関連をより強く持たせた授業展開を構成し、諸課題へのアクションプランについても考えさせる展開へと改善してきたいと思った。

(3) 使用教材

①スライド(一部抜粋)

What do you think of Africa?

・ Try to make your mind-map for 2min!

abbreviations(略語) matching Quiz

①	国連児童基金
②	国連教育科学文化機関
③	国連難民高等弁務官事務所
④	国際協力機構

あ	UNHCR	い	UNESCO
う	JICA	え	UNICEF

Many Japanese people working in Zambia, Africa

I will show their messages to you.

What's international cooperation?

- ◆ 1st step ⇒ Think about it by yourself.
- ◆ 2nd step ⇒ Talk about it with your friends.
- ◆ 3rd step ⇒ Write your group's answer on the whiteboard & tell us about it.

What's JICA(ジャイカ)?

人(ヒト)	技術協力	・ 専門家派遣 ・ 研修員受入
物(モノ)	無償資金協力	・ インフラ整備 ・ (学校、井戸、道路など)
金(オカネ)	有償資金協力	・ 資金供与 ・ 例) 橋の建設

・ワークシート(一部抜粋)

International Comprehension Lesson Vol.4



No. \_\_\_\_\_ Name \_\_\_\_\_

Think about international cooperation

1. Let's learn messages from Japanese people working for the world.

Name	Memo(授業に思った言葉、考えたこと)
Masahiro Kajihara (梶原 祥大さん) ザンビア大学感染症 対策プロジェクト	
Naoko Yamamoto (山本 奈央子さん) 青年海外協力隊員 奈良・生活改善担当	
Mitsue Akiba (秋葉 光枝さん) JICA 広報室	
Yuriko Matsumoto (松本 由利子さん) JICA ザンビア事務所	
Junichi Hanai (花井 謙一所長) JICA ザンビア事務所	
Masahisa Sato (佐藤 真久教授) 東京都立大学	

3. In conclusion ~結びに~

・ 援助と協力

・ SDG: —Leave No One Behind「誰一人取り残さない」—

・ Think globally, act locally

4. Reflection(ふりかえり)


3. + a <Answer these questions.>

・ Are International Lessons useful for you?

(Yes / No)

・ Do you want to keep learning these lessons?

(Yes / No)

・ What kind of topics do you want to do more?

( )



(4) 参考資料等

『国際理解教育実践資料集』 JICA 教材作成実行委員会編集 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 地球ひろば (2013年)

『開発教育実践ハンドブック』 参加型学習で世界を感じる 開発教育協会 (2003年)

『SDGsと開発教育』 田中治彦、三宅隆史、湯本浩之編著 学文社

難民関係

『どうなってるの? 世界と日本』 独立行政法人 国際協力機構 (JICA) 広報室 (2015年)

『基本解説 そうだったのか。SDGs』 一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク (2017年)

SUSTAINABLE BRANDS JAPANニュース「ひとこと多い張り紙で SDGs理解を呼びかける」

[http://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1189488\\_1501.html](http://www.sustainablebrands.jp/news/jp/detail/1189488_1501.html) (2017年12月19日)

・インターネットの場合: 著者/団体名「ページタイトル」<URL> (アクセス日)

8 単元を通した児童生徒の反応/変化

・SDGsのプロジェクトが意外と身近にあるなと思ったし国際協力の何が大事なのかはつきりは分からなかったけど考えると勉強になることが沢山ありました。

・異国と協力することの大切さを知ることができた。援助も大切なのだろうが協力はもっと達成感が得られるのではないかと思う。

・国際協力は普段身の回りにおこってる仲間との助け合いが世界規模になったというものだと思う。

・両親がアフリカで国際協力を昔やっていたのでその話を聞いていたので知っている話も知らなかった話もあったので面白かった。

・何も特別なことではなく「助け合う」という当たり前のことを国を超えてやるというだけのこと。

つまりは自分ができる協力を自分の周りに対してから始めるのが大切。

・国際協力なんて考えたことなかったけれど、他の国のことを学んだり伝えたりすることも

小さいけれど「国際協力」になるのかなと思った。実際に海外で活動してる人たちはすごいなと思った。

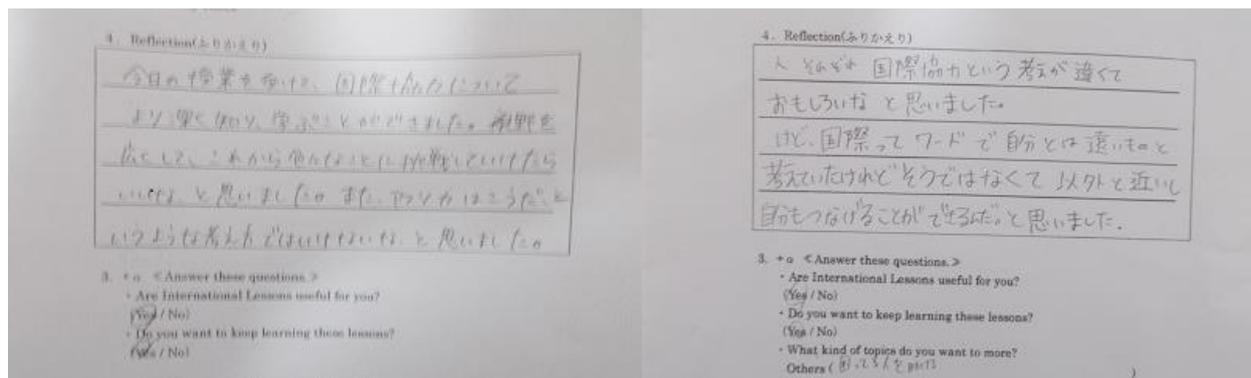
・国際協力という文字だけ見て、国どうしの助け合いなんだろうなと思ってしまっていたけど、「人どうしのつながり」と聞いて、とても身近なものに感じた。

・自分自身のことばかり考えるのではなく、周りを見て、その国やその人に合ったことをするのが国際協力だと思った。

・国際協力がって聞くと難しい内容だと考えるけど、席を譲ったり、友達に教えてあげたりなど意外と身近にあって私たちが気づかないうちにやっていることは国際協力につながるんだと思った。

・難しいことだと思っていたけど、現地の人と協力し合って国や問題点をよくしていくことだと思った。

## 生徒の振り返りシート(一部)



## 9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

## ① 授業実践に向けての計画・実施(PLAN・DO)

事前研修に向けて授業構成案を作成し、事前研修で提示された前年度の授業モデルや海外研修報告書を参考に参加メンバーとの検討会なども通じ授業プランを構成し直した。当初は2, 3時間程度の実践を予定していたが他の参加者のプランも参考に5時間の実践に変更した。海外研修中は、授業実践においてどのような素材、資料を集めると有効なのかを日々考え、他のメンバーと意見交換しながら研修に取り組んでいた。その中でも現地 JICA 職員、協力隊員等への国際協力に関するインタビューは教材の素材として非常に有効だった。帰国後の事後研修で再度授業構成案を検討し、修正を加えて授業の実践を開始した。苦心したのはどのような教材を使い、学習方法を取り入れれば生徒に効果的なのかということを中心に考えたことだった。そのため、通常の授業準備・教材研究の何倍もの時間を要した。また生徒の授業感想、リフレクションを手がかりに授業を進めた。

## ② 成果と課題及び課題の改善策(CHECK・ACTION)

成果としては授業実践の準備と教材研究に多くの時間を要した分、開発教育、国際理解教育を実践するやりがいや強く実感することができた。そして何より、生徒からの「驚いた」、「初めて知った」、「気づいた」という感想・反応の一つ一つが自身の次なる授業づくりへの大きな原動力となった。

課題としては前述の授業事例の振り返りに挙げたように SDGs との関連をより強く持たせた授業展開を構成し、諸課題へのアクションプランについても考えさせる授業へと改善を図っていくことである。そのためには更なる自己研さんを重ね、授業づくりに取り組んでいきたい

## 10 教師海外研修に参加して

教師海外研修に参加した主な動機と目的は、以前参加した教員海外研修で現地での研修の重要性を深く実感したこと、JICAにおける国際協力がどのように行われているのを知ることであった。研修地であるザンビアの概要や、JICA の国際協力の現状等の事前研修を終え、実際の海外研修ではこれまで区別をしていなかった「協力」と「支援・援助」の違いについて、深く考え直させられた。国際協力とは、それは「持てる者(先進国)」から持たざる者(途上国)への一方向のみに作用するものではなく、双方向に対等な立場で互恵的な関係をもたらすということが分かった。(例としてはザンビア大学で行われている人獣共通感染症プロジェクトやムテバ村での丸森町プロジェクトなど。)また、教育者として政治・経済・教育という分野において教育の重要性を最優先事項として考えていたが、経済と教育の関連性と、経済が成り立つことで教育が効果的に行えることを強く痛感した。またすべてが包括的に関連していることも強く実感した。

実際の授業実践では、毎時間の教材研究と準備に通常の授業準備の何倍もの時間を要した。実践の中で開発教育に関する研修会に幾度となく参加し思索を重ねた。苦労も多かったが、リフレクションでの生徒からの「驚いた」、「初めて知った」、「気づいた」という反応の一つ一つから次の授業への活力を得ることができた。また、自身として海外(特に途上国)の開発、難民などの時事問題への関心も強くなり、様々な NGO 団体や国際協力団体との連携を図ったり、参加をしたりした。そしてこの冬には NGO 主催のカンボジアのスタディツアーへ参加をした。

今後も SDGs への理解を深めつつ、開発教育・国際理解教育を実践していくことを自身のライフワークの一つとし、生徒が対話的かつ主体的に学びを深められるよう更に研さんと実践を重ねていきたい。